

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1495200220
法人名	株式会社アイ・ディ・エス
事業所名	バナナ園武蔵小杉
訪問調査日	令和2年10月29日
評価確定日	令和2年12月24日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200220	事業の開始年月日	平成25年6月1日	
		指定年月日	平成25年6月1日	
法人名	株式会社アイ・ディ・エス			
事業所名	バナナ園武蔵小杉			
所在地	(211-0022) 川崎市中原区荻宿8-54			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年6月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念である「明るく・楽しく・自由に」を念頭におき、ご入居者様・ご家族様はもちろんのこと働くスタッフも明るく・楽しく・自由に仕事ができるよう、皆で協力して運営しています。

新型コロナウイルスが猛威をふるう中、楽しく外出もできない入居者様のためにお休みしていたバナナ農園を復活させて、きゅうりや茄子、トマト、ミント、ゴーヤなどの野菜を始め四季折々のお花を窓からすぐ見える場所に配置しました。

ご入居者様お一人お一人の夢、またそのご家族様の想いや夢も一緒に探し叶えてあげられる様に、ご家族様との関係づくりも大切にしています。いつでも気軽に何でも言い合える様な関係が築けるよう、職員一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和2年10月29日	評価機関 評価決定日	令和2年12月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は株式会社アイ・ディ・エスの経営です。同法人は社会福祉法人ばなな会と共に川崎市を中心にグループホームを展開しており、グループ全体で10ヶ所のグループホームを運営しています。古民家を改修した造りから近代的な建物まで、様々な利用者のニーズに対応出来る事業所があることが、法人の特色でもあります。ここ「バナナ園武蔵小杉」はJR「平間駅」、JR・東急東横線「武蔵小杉駅」、東急東横線「元住吉駅」の3駅から徒歩15分程で行ける利便性の良い場所にあります。周辺環境は住宅街事業所のすぐ裏手には小さな小川が流れ、周囲は住宅が多く立ち並び、小学校や保育園も近くにあるため、地域交流も行いやすい場所にあります。

●事業所所では利用者一人ひとりに好きなものや「食べたいもの」を聞き、毎月のお楽しみお食事会と称して好きな物を食べていただく機会を設けて来ました。テレビや広告を通して旬の食材や食べ物を見た時に出る利用者の言葉に着目し、「今望んでいるもの・こと」を実現し、利用者の思いや夢を実現できるようにケアサービスを提供できるよう心がけています。また、管理者は「今を大切に、未来を考える」ことにフォーカスを当て、会話や意思疎通ができていく間に、利用者の情報を1つでも多く収集し、看取り介護や重度化して身体的介護が必要となった後でも利用者の思いや意向に沿った支援が行えるよう注力しています。

●法人として「ユマニチュードケア」の導入に注力し、ユマニチュードケアの数ある技法の中から事業所ごとに課題を決めて学び・理解を深め、情報を共有しながらケアの資質向上に注力し、更なる質の高いケアサービスを提供できるよう研鑽しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	バナナ園武蔵小杉
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく・楽しく・自由に」というモットーは浸透していると思っています。職員も「〇〇しても良いですか？」と様々な意見を提案してくれるようになりました。	バナナ園グループの理念「明るく・楽しく・自由に」をモットーとし、事業所で暮らす利用者、働く職員も「明るく・楽しく・自由に」働ける職場環境作りを心がけています。理念は事務所に掲示し、朝礼やミーティング時にも確認しています。職員も積極的にアイディアなどを提案してくれるなど、実践につなげています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルスの影響により地域との交流は一切ありません。定期訪問という形で、管理者が毎月地域の挨拶周りのみ実施できているという状況です。	現在は新型コロナウイルスの影響もあり、地域との交流機会は持ていませんが、自治会に加入しており、以前は自治会の行事は積極的に参加して交流を図っていました。また、事業所主催の行事には地域の方々をお誘いしたり、年2回の保育園児との交流行事、体験学習の受け入れなど、地域に根ざした事業所運営がされています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、新型コロナウイルスの影響により運営推進会議もオンラインで開催しておりなかなか以前のように勉強会を交えた活動ができておりません。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	有難いことに、ご家族様や地域の方々から様々なご意見を頂戴できています。嬉しいものから、厳しいものまで頂いており本当に感謝の気持ちでいっぱいです。頂戴したご意見等は必ず全職員に申し送り等で伝えていきます。	家族・入居者・住吉地域包括支援センター職員・自治会の方・民生委員の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。事業所の現状や活動報告、地域の情報などもいただきながら意見交換を行っています。いただいた意見や提案は必ず全職員に申し送りなどで伝え、共有しながら運営やサービスの向上につなげていきます。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターへは毎月訪問しておりますので、状況の説明・共有はできていると思います。ただ中原区役所へは連絡を密にとるなどの業務は行っておりません。	住吉地域包括支援センターとは運営推進会議への参加をはじめ、毎月管理者が訪問しており、事業所の取組みや実情を把握していただいています。川崎市や中原区から研修や講習会の案内が届いた際には事務所に掲示したり、申し送りや会議時に周知して参加を促しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束であることは理解していますが、玄関・フロアは施錠しています。	身体拘束・虐待に関する研修は年関研修計画にも組み込まれ「拘束ゼロの手引き」を基に法人内研修及び事業所内でも研修を年1回以上実施しています。職員は身体拘束・虐待の対象となる行為や弊害を共有認識し、人体拘束・虐待を行わないケアを実践しています。事業所では、研修のみならず、業務会議や申し送りなどでも日々のケアの振り返りや話し合う機会を設けています。安全面を考慮してフロアの入り口と玄関は施錠していますが、入居時に家族から了承を得ています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が知らず知らずのうちに接遇が悪くなって虐待に繋がりがねないケアを行う事があるかもしれません。その都度、また申し送りなどで「それは許されないこと」と共通認識がもてるように情報共有しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所では後見人さんがついているご入居者様が2名いらっしゃいます。今後、後見人さんにも協力して頂きながら権利擁護などに関する勉強会も開催できたら良いなと思っています。また、当法人の1年間の研修内容にて権利擁護に関する内容を取り入れても良いかもしれません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定内容などは、書面をもってお伝えしていますが説明する機会はあまり設けていません。その代わりに、電話などでコンタクトのあるご家族様等についてはフォローはしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などにご出席されない方を中心として「アンケート調査」をおこなうことしております。また頂戴した貴重なご意見は職員全員で共有しています。	利用者の意見・要望については、日々の関わりや表情からの汲み取りに努め、個人記録や業務日誌一人ひとりの要望を記入し、情報を共有しながら要望に沿った支援が出来るよう努めています。家族からの意見や要望は運営推進会議の場や、面会時、電話連絡した際に近況報告と併せて話しを聞いています。また、運営推進会議に参加できない家族を中心としてアンケート調査を実施するなど、家族からの意見や要望を積極的に吸い上げています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当事業所内では意見や提案する機会は数多くあるのではないかと考えています。管理者やリーダーがすぐに物事を決定するのではなく「どうしたら良いと思いますか?」「あなたはどうしたいですか?」と聞くようにしています。	管理者は出勤時に各ユニットをラウンドし、職員とコミュニケーションを積極的に図ることで話しやすい雰囲気づくりを心がけています。事業所では管理者やリーダーが物事を決定するのではなく、職員からの意見や提案を募り、職員の声を聞くようにしています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件については管理者の裁量で出来る範囲とそうでない範囲がありますが、できるだけより環境に整備できるようにしたいと思っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修については、事業所で受講判断ができません。運営会社より指示があったもののみ受講ができるシステムになっています。ただ働きながらトレーニングできそうな内容のものについては、職員の自己判断で受講するようにお勧めしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎月、グループ全体で会議があります。そこでネットワークづくりや情報共有ができるような気がします。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は環境の変化により、戸惑っておられる方がほとんどです。ゆっくりとしたペース、穏やかなトーンでじっくりお話しする時間を作るように職員全員で取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	頻繁にご家族から電話が入るのが、当事業所です。1日に必ず1回はどこかのご家族様から電話があります。1つ1つお話しをお伺いしています。その場で難しいと判断できそうな内容も「一度、検討してみますね」とお伝えする様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループではグループホームの運営に加えて、ショートステイとデイサービスが提供できるようになっています。様々なプランをケアマネへ提供し、よりよい支援となるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができるかどうか、まずは色々試す事を実施しています。これまでの生活の状況だけを見て「できない」と判断するのではなく、まずは「やってみる」をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	色々な情報を共有して、いざというときに力になってもらえるように日頃からの関係性を重要視しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスが蔓延する前は、ご近所からご友人が訪問されたり、遠方のご親戚が来られたり来客の多い施設でした。どのような来客でもご本人様が覚えていらっしゃれば、こころよくお迎えしています。	本人がこれまで構築してきた人との関係が途切れないよう、入居時には家族に差しさわりのない程度に友人などにもお伝えしてくださいと声かけしています。新型コロナウイルスが蔓延する以前は、近所に住んでいる友人や親戚の来訪も多くありました。面会に来られた際には居室を案内するなど、寛いで過ごしていただけるよう配慮しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者様に積極的に関わりにいけるタイプとそうでないタイプの方がいらっしゃいますが、それぞれが得意とする方法で一緒に生活を回しているように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	先方からのアクションがあった際には、これまで通り適切に対応するよう心がけている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居当初から本人の意思確認がとれないこともしばしばあるが、本人から希望や意向が確認できない場合にはご家族様に様々な情報を伺うようにしている。	入居前面談時に、本人・ご家族から過去の生活歴や既往歴、ADL・IADL、趣味嗜好、暮らし方の希望を聞き、その方の思いや意向に沿った支援を心がけています。日頃から「利用者の心に寄り添ったケア」を実践するためにユマニチュードケアに取り組み、知覚・感覚・言語による包括的コミュニケーションを通して、思いや意向の把握に努めています。日々の係りの中で本人が発した言葉や職員の気づきは、個人記録に記載したり、申し送りで情報を共有しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聴取できない場合は、家族から情報提供をお願いしている。また日々の生活の中で様々な話をして聞いて聞き出すことをチャレンジしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを中心として、日々心身の状態について全員で情報共有と情報収集を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族は入居した時点で、本人の現状を把握しづら関係性に変化していることが多い。連絡をとりあいながら、現状を伝えケア方法を伝えている。そうすると家族からも提案がある。本人に関わる全員でケアプランを立てられるようにしている。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成しています。入居後は初回の介護計画目安に経過を観察を行い、入居面談時に得られた情報と差異が無いかなど、細かな情報を収集しています。ケア会議でカンファレンスを行い、日々の記録や職員の気づきを話し合い、ケアの課題などを明確にして共通認識を図り、その方の自立に向けた介護計画を作成しています。状態の変化に応じて都度モニタリングを行い、現在の身体状況に合わせた介護計画に沿って支援が行われているか見直しを行っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭での申し送りに加えて、電子記録に気が付いたことは入力している。ケアや状況の経過が見れるようにしながらプランを立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の人員ではサービスの多機能化は難しい。しかし、こんな事ができるのではないかなど意見や提案は欠かさず行うように心がけている。それを出る限り家族と協力しながらサービスの提供ができるようにしたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は新型コロナウイルスの影響にて地域との繋がりが希薄になっているが、町内との関わりについては今後も積極的に行いたいと思っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターについては全員同じであるが、病状によっては他の医療機関を受診するようにしている。それは家族等と連絡をとりながらその時最も適切である医療機関を受診するようにしている。	入居時に協力医療機関について説明し、協力医療機関に切り替えていただくことのメリットなども伝え、本人と家族の意向を尊重して主治医を決めていただいています。現在は、全員が事業所の協力医療機関「ひろクリニック大森」からの訪問診療を受けており、訪問看護ステーションの看護師による健康管理も週1回あります。必要に応じて紹介状を書いていただき他科へ受診しています。訪問歯科は必要な方のみ契約して、口腔ケアや治療を受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所へは週1回、訪問看護にて看護師が来園する。日頃のささいな言動の変化も伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との連携について、入院が長期にわたるような場合には時々お見舞いに行ったり様子を伺ったり電話で病棟ナースに繋いで貰ったりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期についてはいつ誰がどのタイミングでそうなるか予測がつかない場合がある。しかしながら日頃から家族に生活状況を伝えることにより、事前に少しずつグループホームで出来る事、当事業所ができることを伝えている。	入居時に重度化や終末期における指針について説明し、同意書を取り交わしています。事業所では医療行為を必要としない場合のみ看取りを行うとしており、主治医の判断の基に重度化と認められた場合には、家族に説明していただいたうえで今後の方針について話し合う機会をもうけています。家族の意向により事業所で看取りを行う場合は、改めて同意書を取り交わしたうえで主治医・看護師・家族と連携を取りながら、穏やかな終末期を迎えられるよう支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はシフトで動いているため、急変や事故などの発生については携われる人と携われない人にわかれてしまう。こういう時には、このような対応をすること等のレクチャーを事故等が起こるたびに全員で共有して意識に刷り込むようにしている。また当法人での年間研修スケジュールにも事故対応などの研修が備えられている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内での訓練についてはできるとしても、地域との協力体制については築くのが難しいと感じている。	事業所では年2回の避難訓練を実施し、利用者にも可能な限り参加していただくようにし、水消火器の取り扱い訓練や避難するまでの時間を図る等、災害時に迅速に対応出来るように備えています。避難時に付ける名札も準備し、地域の方や消防の方が一目でわかるようにしています。備蓄は水、食料、衛生用品も含めて3日分は準備しています。現在は、災害時における地域との協力体制が課題であると考えており、運営推進会議でも話し合っていきたいと考えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの時間が重なってしまった時や食事の支度前などの忙しい時間帯でも丁寧な言葉かけが行えるように、日々職員全員と話している。	入職時研修や入職後も定期的な研修(常勤は毎月・非常勤は年3回)を行うとともに、業務会議やケア会議の中でも、接遇・マナー・倫理について話し合う機会を設け、入居者様一人ひとりの人格を尊重し、尊厳やプライバシーを遵守することの大切さを理解してケアに当たるよう職員に周知徹底しています。昨年度から法人ではユマニチュードケアの浸透に注力しており、「見る・話す・触れる・立つ」の4つの柱を基本とし、本人の自己決定や意思を尊重したケアの実践につなげています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんなに意思疎通が図りづらくても、出来る限り本人の希望が聞き出せるような声掛けの仕方をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営上「こうあるべき」という概念にとらわれてしまい、つい入居者のペースを変えてしまうことがある。毎日が同じことにならないよう、その時に最善と思われるケアを行うよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所で禁止しているものは火を使うものや高温を伴うものだけ。お化粧品もマニキュアも装飾品も本人や家族が望むのであれば可としている。やりたいのにご自身で難しい場合に限っては職員が手助けしてお化粧品などを簡単に補助することもある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ好きなメニューと嫌いなメニューがあるが、月ごとに希望のメニューが提供できるように計画している。また、準備片付けまで出来る限り一緒におこなっている。	食材はレシピ付きで業者から発注し、職員が調理しています。できる方には準備や片付けを手伝っていただくようにし、残存能力の維持につなげています。「食の楽しみ」を感じていただくための取り組みとして、2ヶ月に1回程度「口福の会」と称した食事会を開催し、シェフを招いてフルコースの料理や季節の料理を楽しんでいただくという企画も実施しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては専門業者からの指導があるため、ある程度問題がないと考えている。水分量やその他個々の状態や習慣については、その時に応じて最善のケアを提供する様に職員全員でその都度話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアは行っている。また訪問歯科診療も取り入れ、自身で口腔ケアができる人も定期的に診察してもらうよう計画している。診療を希望しない人に関しても、職員が積極的に関わり口腔内のチェックを定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレに行き、自立心や自尊心が傷つかないようにも支援している。しかし立位をとることや歩くことでその後に影響が出る方もいるので、その都度職員で話し合いトータルして自立した生活となるよう支援している。	自立している方、介助が必要な方問わず全員の排泄状態を記録しています。排泄記録を基に職員間で意見交換しながら、時間やタイミングを見計らった声かけや誘導を行い、トイレでの自立排泄に向けた支援を心掛けています。その際には、自尊心や尊厳を損なうことのないよう留意しながら対応しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬だけに頼らず、食品を活用して便秘対策ができるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴予定表を予め決めて決めている。これは、施設イベントや本人の通院や都合を考慮した上で作成されている。それでも予定通りにご入浴して頂けない事もあるので、その都度本人とお話ししながら決めている。	入浴予定表を作成しており、予定表に沿った入浴支援を心がけていますが、予定表に拘らず、体調や本人の意思を尊重しながら入浴を促し、気持ちよく入浴していただけるように支援しています。なお、1階の浴室にはリフトが完備されているため、車椅子の方でも入浴していただくことが可能となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩時間については、個々に合わせている。午前中に休みたい人もいれば、入浴後に横になりたい人もいるし、横になるのを嫌がる方もいる。その時、その状況に合わせて声を掛け合いながら休憩時間をつくれるようにケアをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	なかなか副作用まで全てを覚えるのは難しいが、いつ誰がどのタイミングで何を服薬されているかはおおよその職員が把握している。またいつでも確認できるように、お薬情報をリビングの近くに保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割を予め決めるようなことはしていないが、その日その時に最大限の力が発揮できるような役割分担をしている。ずっと皆で集まっているのも疲れてしまうのでそれぞれが気晴らし出来るように時々距離をあけて頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、全社的に外出が禁止されている。散歩など他人と場所を共有しないものに限っては許可が出ているのでその範囲で外出支援をしている。	新型コロナウイルスの影響により外出支援は制限されていますが、事業所周辺を散歩したり庭で外気浴を行うなど、季節感を肌で感じていただくようにしています。また、年に1回、全社上げての催し物も開催しており、今年は川崎にある能楽堂を借りて狂言教室を開催しました。また、毎年季節に合わせた年間外出行事計画して実行していますが、現在は新型コロナウイルスの影響で活動が制限されているので終息次第、以前のように外出支援を行っていきたいと考えています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、本人・家族が了承した場合にのみ可能としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使える様にしている。また関係者から着信があった際には本人とも直接会話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新型コロナウイルスの影響で換気をする回数や時間がかなり長くなっており、適温を保つのが難しい時もある。なるべく本人達への悪い刺激にならないよう心がけている。	室内は室温・湿度の管理を徹底し、空気も定期的に入れ替え、共用空間は家庭的な雰囲気を大切にしつつ、安全かつ安心して過ごせる空間づくりを心がけています。内装は白とダークブラウンを基調とした落ち着いた色合いが使用され、清潔感のある明るい共用空間となっています。また、室内にいても季節感を感じられるよう季節ごとに装飾品も変えています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所は固定せず、その時の雰囲気を読み取って適宜変えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気ポットやカセットコンロ、仏壇のお線香（火を使用するもの）以外については、持ち込みを許可している。その人が過ごしやすく安心できるような居室にするよう本人・家族と話し合っている。	家庭生活の延長として生活を送っていただけるよう、入居時には使い慣れた物や馴染みの品を持ち込んでいただくように伝えています。居室には、その方にとっての思い出の品や調度品などが持ち込まれ、落ち着いて過ごせる居室作りがされています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当事業所はトイレの場所が非常に分かりづらいので、トイレのドアに視覚で訴え理解してもらえるよう工夫している。また自立した生活に繋がるよう、基本は職員が動かず本人に動いてもらえるような後方支援をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

バナナ園武蔵小杉

作成日

2020年10月29日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
	5	現在、新型コロナウイルスの影響により地域との交流は一切ありません。定期訪問という形で、管理者が毎月地域の挨拶周りのみ実施できているという状況です。	地域交流が気兼ねなくできるようになる。		期間は定められない。新型コロナウイルスの影響のため。
	6	身体拘束であることは理解していますが、玄関・フロアは施錠しています。	開錠する範囲を広げる。	まずは非常口の開錠、次にフロア玄関開錠、最後に施設玄関の開錠。	2021/3/1までに非常口の開錠が無理なくできるようにする。
	28	現在の人員ではサービスの多機能化は難しい。しかし、こんな事ができるのではないか？などの意見や提案は欠かさず行うように心がけている。それを出来る限り家族と協力しながらサービスの提	どのような多機能サービスがあるのかを検討する。	多機能サービスは全社的に取り組むべき課題である。11月会議にて提案する。	2021/3/1まで
	35	事業所内での訓練についてはできるとしても、地域との協力体制については築くのが難しいと感じている。	災害時、地域との協力体制が築けるように日頃からの関係性を良くする。	まずは近隣の道路の清掃活動から始める。	無期限

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	バナナ園武蔵小杉
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく・楽しく・自由に」というモットーは浸透していると思っています。職員も「〇〇しても良いですか？」と様々な意見を提案してくれるようになりました。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルスの影響により地域との交流は一切ありません。定期訪問という形で、管理者が毎月地域の挨拶周りのみ実施できているという状況です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、新型コロナウイルスの影響により運営推進会議もオンラインで開催しておりなかなか以前のように勉強会を交えた活動ができておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	有難いことに、ご家族様や地域の方々から様々なご意見を頂戴できています。嬉しいものから、厳しいものまで頂いており本当に感謝の気持ちでいっぱいです。頂戴したご意見等は必ず全職員に申し送り等で伝えていきます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターへは毎月訪問しておりますので、状況の説明・共有はできていると思います。ただ中原区役所へは連絡を密にとるなどの業務は行っておりません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束であることは理解していますが、玄関・フロアは施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が知らず知らずのうちに接遇が悪くなって虐待に繋がりがねないケアを行う事があるかもしれません。その都度、また申し送りなどで「それは許されないこと」と共通認識がもてるように情報共有しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所では後見人さんがついているご入居者様が2名いらっしゃいます。今後、後見人さんにも協力して頂きながら権利擁護などに関する勉強会も開催できたら良いなと思っています。また、当法人の1年間の研修内容にて権利擁護に関する内容を取り入れても良いかもしれません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定内容などは、書面をもってお伝えしていますが説明する機会はあまり設けていません。その代わりに、電話などでコンタクトのあるご家族様等についてはフォローはしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などにご出席されない方を中心として「アンケート調査」をおこなうことによりしております。また頂戴した貴重なご意見は職員全員で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当事業所内では意見や提案する機会は数多くあるのではないかと考えています。管理者やリーダーがすぐに物事を決定するのではなく「どうしたら良いと思いますか?」「あなたはどうしたいですか?」と聞くようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件については管理者の裁量で出来る範囲とそうでない範囲がありますが、できるだけより環境に整備できるようにしたいと思っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修については、事業所で受講判断ができません。運営会社より指示があったもののみ受講ができるシステムになっています。ただ働きながらトレーニングできそうな内容のものについては、職員の自己判断で受講するようにお勧めしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎月、グループ全体で会議があります。そこでネットワークづくりや情報共有ができるような気がします。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は環境の変化により、戸惑っておられる方がほとんどです。ゆっくりとしたペース、穏やかなトーンでじっくりお話しする時間を作るように職員全員で取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	頻繁にご家族から電話が入るのが、当事業所です。1日に必ず1回はどこかのご家族様から電話があります。1つ1つお話しをお伺いしています。その場で難しいと判断できそうな内容も「一度、検討してみますね」とお伝えする様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループではグループホームの運営に加えて、ショートステイとデイサービスが提供できるようになっています。様々なプランをケアマネへ提供し、よりよい支援となるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができるかどうか、まずは色々試す事を実施しています。これまでの生活の状況だけを見て「できない」と判断するのではなく、まずは「やってみる」をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	色々な情報を共有して、いざというときに力になってもらえるように日頃からの関係性を重要視しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスが蔓延する前は、ご近所からご友人が訪問されたり、遠方のご親戚が来られたり来客の多い施設でした。どのような来客でもご本人様が覚えていらっしゃれば、こころよくお迎えしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者様に積極的に関わりにいけるタイプとそうでないタイプの方がいらっしゃいますが、それぞれが得意とする方法で一緒に生活を回していけるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	先方からのアクションがあった際には、これまで通り適切に対応するよう心がけている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居当初から本人の意思確認がとれないこともしばしばあるが、本人から希望や意向が確認できない場合にはご家族様に様々な情報を伺うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聴取できない場合は、家族から情報提供をお願いしている。また日々の生活の中で様々な話をして聞き出すことをチャレンジしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを中心として、日々心身の状態について全員で情報共有と情報収集を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族は入居した時点で、本人の現状を把握しづらい関係性に変化していることが多い。連絡をとりあいながら、現状を伝えケア方法を伝えている。そうすると家族からも提案がある。本人に関わる全員でケアプランを立てられるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭での申し送りに加えて、電子記録に気が付いたことは入力している。ケアや状況の経過が見れるようにしながらプランを立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の人員ではサービスの多機能化は難しい。しかし、こんな事ができるのではないかなど意見や提案は欠かさず行うように心がけている。それを出る限り家族と協力しながらサービスの提供ができるようにしたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は新型コロナウイルスの影響にて地域との繋がりが希薄になっているが、町内との関わりについては今後も積極的に行いたいと思っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターについては全員同じであるが、病状によっては他の医療機関を受診するようにしている。それは家族等と連絡をとりながらその時最も適切である医療機関を受診するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所へは週1回、訪問看護にて看護師が来園する。日頃のささいな言動の変化も伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との連携について、入院が長期にわたるような場合には時々お見舞いに行ったり様子を伺ったり電話で病棟ナースに繋いで貰ったりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期についてはいつ誰がどのタイミングでそうなるか予測がつかない場合がある。しかしながら日頃から家族に生活状況を伝えることにより、事前に少しずつグループホームで出来る事、当事業所ができることを伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はシフトで動いているため、急変や事故などの発生については携われる人と携われない人にわかれてしまう。こういう時には、このような対応をすること等のレクチャーを事故等が起こるたびに全員で共有して意識に刷り込むようにしている。また当法人での年間研修スケジュールにも事故対応などの研修が備えられている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内での訓練についてはできるとしても、地域との協力体制については築くのが難しいと感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの時間が重なってしまった時や食事の支度前などの忙しい時間帯でも丁寧な言葉かけが行えるように、日々職員全員と話している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんなに意思疎通が図りづらくても、出来る限り本人の希望が聞き出せるような声掛けの仕方をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営上「こうあるべき」という概念にとらわれてしまい、つい入居者のペースを変えてしまうことがある。毎日が同じことにならないよう、その時に最善と思われるケアを行うよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所で禁止しているものは火を使うものや高温を伴うものだけ。お化粧品もマニキュアも装飾品も本人や家族が望むのであれば可としている。やりたいのにご自身で難しい場合に限っては職員が手助けしてお化粧品などを簡単に補助することもある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ好きなメニューと嫌いなメニューがあるが、月ごとに希望のメニューが提供できるように計画している。また、準備片付けまで出来る限り一緒におこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては専門業者からの指導があるため、ある程度問題がないと考えている。水分量やその他個々の状態や習慣については、その時に応じて最善のケアを提供する様に職員全員でその都度話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアは行っている。また訪問歯科診療も取り入れ、自身で口腔ケアができる人も定期的に診察してもらうよう計画している。診療を希望しない人に関しても、職員が積極的に関わり口腔内のチェックを定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレに行き、自立心や自尊心が傷つかないようにも支援している。しかし立位をとることや歩くことでその後に影響が出る方もいるので、その都度職員で話し合いトータルして自立した生活となるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬だけに頼らず、食品を活用して便秘対策ができるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴予定表を予め決められている。これは、施設イベントや本人の通院や都合を考慮した上で作成されている。それでも予定通りにご入浴して頂けない事もあるので、その都度本人とお話ししながら決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩時間については、個々に合わせている。午前中に休みたい人もいれば、入浴後に横になりたい人もいるし、横になるのを嫌がる方もいる。その時、その状況に合わせて声を掛け合いながら休憩時間をつくれるようにケアをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	なかなか副作用まで全てを覚えるのは難しいが、いつ誰がどのタイミングで何を服薬されているかはおおよその職員が把握している。またいつでも確認できるように、お薬情報をリビングの近くに保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割を予め決めるようなことはしていないが、その日その時に最大限の力が発揮できるような役割分担をしている。ずっと皆で集まっているのも疲れてしまうのでそれぞれが気晴らし出来るように時々距離をあけて頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、全社的に外出が禁止されている。散歩など他人と場所を共有しないものに限っては許可が出ているのでその範囲で外出支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、本人・家族が了承した場合にのみ可能としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使える様にしている。また関係者から着信があった際には本人とも直接会話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新型コロナウイルスの影響で換気をする回数や時間がかなり長くなっており、適温を保つのが難しい時もある。なるべく本人達への悪い刺激にならないよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所は固定せず、その時の雰囲気を読み取って適宜変えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気ポットやカセットコンロ、仏壇のお線香（火を使用するもの）以外については、持ち込みを許可している。その人が過ごしやすく安心できるような居室にするよう本人・家族と話し合っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当事業所はトイレの場所が非常に分かりづらいので、トイレのドアに視覚で訴え理解してもらえるよう工夫している。また自立した生活に繋がるよう、基本は職員が動かず本人に動いてもらえるような後方支援をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

バナナ園武蔵小杉

作成日

2020年10月29日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
	5	現在、新型コロナウイルスの影響により地域との交流は一切ありません。定期訪問という形で、管理者が毎月地域の挨拶周りのみ実施できているという状況です。	地域交流が気兼ねなくできるようになる。		期間は定められない。コロナウイルスの影響のため。
	6	身体拘束であることは理解していますが、玄関・フロアは施錠しています。	開錠する範囲を広げる。	まずは非常口の開錠、次にフロア玄関開錠、最後に施設玄関の開錠。	2021/3/1までに非常口の開錠が無理なくできるようにする。
	28	現在の人員ではサービスの多機能化は難しい。しかし、こんな事ができるのではないか？などの意見や提案は欠かさず行うように心がけている。それを出来る限り家族と協力しながらサービスの提	どのような多機能サービスがあるのかを検討する。	多機能サービスは全社的に取り組むべき課題である。11月会議にて提案する。	2021/3/1まで
	35	事業所内での訓練についてはできるとしても、地域との協力体制については築くのが難しいと感じている。	災害時、地域との協力体制が築けるように日頃からの関係性を良くする。	まずは近隣の道路の清掃活動から始める。	無期限

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。